

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**大学院生研究**  
**2007年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院 異文化コミュニケーション 研究科 異文化コミュニケーション 専攻		
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名
	異文化コミュニケーション学部・ 准教授		小山 亘 印
<b>自然・人文の別</b>	自然 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 人文	<b>個人・共同の別</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
<b>研究課題名</b>	「儀礼」としての自然インタープリテーション： 環境ディスコースの言語人類学的考察		
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	異文化コミュニケーション研究科・ 異文化コミュニケーション専攻・ 後期課程2年		浅井 優一 印
<b>研究組織</b>	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	異文化コミュニケーション研究科・ 異文化コミュニケーション専攻・ 後期課程2年		浅井 優一
<b>研究期間</b>	2007	年度	
<b>研究経費</b>	200	千円	

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

社会、文化、言語など、人間の相互行為の根幹に直接的に関与する領域の、包括的、超領域的研究・実践を目指すESDの方法論に依拠し、人間と自然との共存関係の再構築を試みる自然インタープリテーション（エコツーリズム活動）を初めとする環境運動、あるいは環境思想の展開を、「談話分析」の方法論に依拠して考察することによって、「環境」が、社会文化的コミュニケーション（ディスコース）を通して、どのように構築され、それが今日の環境運動の在り方、そして「環境問題」の理解にいかなる関与を持つのかについて考察する。それによって「環境」の問題系を、「コミュニケーション」の概念を基点に、主に人文系を中心とした言語・文化研究へと体系的に接合し、「環境」を文化的観念体系、すなわち、文化的・言語的アイデンティティといった人間の社会、文化の地平において捉え直す「環境コミュニケーション」の概念を提示する。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 環境コミュニケーション } { 持続可能性 } { 談話分析 }

## 研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、いわば「環境なきコミュニケーション研究」と「コミュニケーションなき環境研究」という、文化と自然の二項対立を反映する今日の研究営為に対する問題意識に立脚し、〈今ここ〉〈彼岸〉という「詩的構造」によって織り上げられる「テキスト」として相互行為をとらえ、そのテキスト化の過程を理論化する言語人類学の分析枠組みに依拠し、談話析や語用論などを中心に展開する日常会話の分析と、環境(史)、そして環境運動・環境思想の発達過程を、以下の手順に従って接合を試みた。

まず、言語人類学者シルヴァス ティンによる、1974年にシカゴ大学大学院に通う2人の学生が行った「日常会話」の談話分析事例をとりあげ、この学生2人の会話において、シカゴをとり巻く環境が、両発話参加者の間で喚起(前提)可能な社会文化的価値体系の知識(**the East**—**Chicago**—**the rest of the Midwest**)としてコンテクスト化されていること、そのようにコンテクストとして共有された知識である「環境」(「彼岸」)が、発話参加者によって使用されるダイクシスを媒介として、会話が行われている「今ここ」へと結びつけられることで、「環境」が発話者のアイデンティティ、力関係構築の基盤として機能していることを確認した。

そして、アメリカ中西部最大の都市シカゴが、19世紀中葉以降、ニューヨーク市を中心とする東海岸(**the East**)と中西部(**the Midwest**)の結節点として、東海岸の資本家たちが待望する「中西部のメトロポリス」の誕生を体現していくかたちで急速に成長した過程を考察し、シカゴという都市的空間が、**the East**—**Chicago**—**the rest of the Midwest**という構図として展開することにおいてのみ存立可能な空間であることを明らかにした。環境歴史学者クロノンの環境史的考察に立脚し、シカゴ大学の学生2人の日常会話において両者のアイデンティティの拠り所として喚起されていた地理的構図が、シカゴ形成の環境史と重なり合うことを示し、後者(=環境(史)=「彼岸」)が、前者(=人間のコミュニケーション=「今ここ」)に対する歴史的コンテクストを準備していることを明確にした。

更に、現在のアメリカにおける環境(エコロジー)思想・環境運動の基盤の構築に大きな影響力をもったジョン・ミューアやアルド・レオポルドによる「自然保護」、「土地倫理」などの思潮が、ソローやエマソンなどを中心に東海岸(=「今ここ」)において形成されていた超越主義思想を、東海岸にとっては絶対的「彼岸」として存在した中西部(ウィスコンシンなどシカゴの後背地)が、「アイデンティティ」の構築と深く関連しながら中西部の地においてローカル化したことを図式的に示した。それによって、アメリカにおける環境思想・環境運動が、19世紀中葉以降、シカゴの形成過程において構築されていく**the East**—**Chicago**—**the rest of the Midwest**という、シカゴ大学の学生の談話において観察されたものと同様の環境史的コンテクストを基盤に生起、発達した軌跡を追い、アイデンティティという、人間社会におけるきわめて「文化」的な領野において、コンテクスト化された「環境」が、重要な役割を演じていることを示唆した。

これらの考察によって、「環境なきコミュニケーション研究」と「コミュニケーションなき環境研究」という、〈文化と自然〉の二項対立を反映する今日の研究営為に対する問題意識に立脚し、〈今ここ〉〈彼岸〉という詩的構造によって織り上げられる「テキスト」として相互行為をとらえ、そのテキスト化の過程を理論化する言語人類学の分析枠組みに依拠し、談話分析や語用論などを中心に展開する日常会話の分析と、環境(史)、そして環境運動・環境思想の発達過程の接合を試み、それによって、アメリカにおける環境運動・環境思想が、シカゴ大学生の日常会話において観察されたのと同様に、**the East**—**Chicago**—**the rest of the Midwest**というシカゴの形成過程において構築された「環境史的コンテクスト」を基盤として、〈今ここ〉〈彼岸〉という詩的構造を形成しつつ、「アイデンティティ」の問題と深くリンクしながら展開したことを図式的に示すことができた。

**研究成果の概要 つづき**

以上の考察から示唆されること、それは「環境」とは、人間社会のコミュニケーションをとおして、知識、概念、価値といった「意味」、つまり、きわめて「文化」的（イデオロギー的）なものとしてコンテクスト（ローカル）化されており、それが人間社会で行われる相互行為に輪郭を付与する（つまり、テキスト化する）基盤となっていること、言い換えれば、われわれが生きる現実世界とは、相互行為の〈今ここ〉を中心にして広がる、文化と環境（自然）との複合体として成立していること、であるといえる。そして、このように「環境」が社会文化という特定のコンテクスト（「ローカル」なもの）として生きられ、われわれの現実世界が、文化と環境の両者が不可分に絡み合う複合体として構成されている〈今ここ〉であるとするれば、環境を無視したコミュニケーション研究は端的に言って誤りであり、そのような視座は、〈文化と自然〉の二項対立の再生産に終始する結末を辿るのでは、とさえ言えるのではないか。また、現在行われている環境運動は、社会文化歴史的コンテクストとして生きられているものとして「環境」概念を再規定することによって、それを主題として展開する今日の環境運動自体が、人間社会において行われるコミュニケーションの一樣態であることを自覚し、「コミュニケーション」概念を基盤に、自己再帰的視座を内包した新たな環境研究の可能性を見出すことができるのではないか。人間と環境との関係性を再構築する可能性とは、そのような地平においてこそ求められるべきであり、今後の「環境コミュニケーション」は、そうした観点にから研究されるべきなのではないかという結論を導くことができたと考える。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

**① 雑誌論文**

著者名：浅井優一

論文課題：文化と自然の「環境コミュニケーション」:

＜今ここ＞＜彼岸＞の詩的構造としてのシカゴ環境史

雑誌名：異文化コミュニケーション論集

巻号：第6号

発行年：2008

ページ：69～85

**② 図書**

著者名：共著 (監修者：阿部治、野田研一)

出版社：山と溪谷社

書名：あなたの暮らしが世界を変える (担当箇所「先住民と持続可能性」)

発行年：2007年9月15日

総ページ数：127ページ

**④ 学会発表**

学会名：立教・異文化コミュニケーション学会 第4回大会

開催日：2007年6月9日(土)

開催場所：立教大学池袋キャンパス8号館3階8304教室

発表題目：儀礼としての自然インタープリテーション

—環境コミュニケーションへの言語人類学的視座—